

白樺街道を抜けると大パノラマの真っ只中! 味と心でおもてなし。



●特別室(和・洋室)



●白樺街道



●ロビー



●洋室



●和室

「美しい道の果て」 三浦綾子

美しい道はいい。限りなく豊かな夢を与えてくれるような、そんな期待を抱かせる。白全温泉に至る阿基口かの道は、まさしくそのような道だ。行く手に十勝岳の山容が押し迫るように目近に見えてくると、道の両側に見事な落葉松林がつづく。そのやさしい枝々に心が和んで、からまつの林を出て、

など北原白樺の詩を口ずさむうちに、やがて待望の白樺林が見えてくる。洗われたような真っ白な白樺の木立、これが三キロ以上もつづくのだ。この見事さをわたしはいつたように表現すべきなのか。わたしがしばしば白全を訪れるのは、遠来の客に先ずこの林を見せたいためかも知れない。

この白樺林がつきあたりには白全温泉がある。人の心を包みこむような、静かな山麓のたたずまいだ。

深く見おろす深川の独特なコバルト色。わたしは幾度この水の色を見おろして立ちつくしたことがある。そして、その深川に落下するしたらひげの滝。この滝は、地下水が崖の半ばからはらりり出て滝となり、正にその名の如き形を呈している。他には見られぬ珍しい滝だ。

温泉街を過ぎて何百メートルか山に登ると、きれぎれとひろがる斜面に出る。かつて溶岩の流れた一帯で、自然のきびしさに思わず襟を正される思いがする。見上げる目の前の山容から、絶え間なく立ち昇る噴煙も凄まじい。

ふり返ると、稀に見る雄大な眺望が足もとからひらける。はるか彼方まで、幾重にもたななわる山々。夕光にけふる時など、もはや声も出ない。ここが旭川から車で一時間とは到底思えぬ別天地だ。やはり美しい道の果てに、すばらしい眺望がここにはあるのだ。